第9回日韓3女子大学交流合同シンポジウム参加報告：Symposium Report

参加者名(Name)：工藤　和恵
所　　属(Affiliation)：基幹研究院・自然科学系

今回のシンポジウムは、昨年度より約3週間早い日程だったため、準備が慌ただしくなる部分があった。特に、説明会の日程を組むのが難しく、事前準備の日程をよく考慮する必要があったと感じた。しかし、気候的には厳しい寒さもなく、紅葉がきれいに見られるよい時期だった。以下では主に、当日の様子について報告する。

1. 旅程などに関して

今回のシンポジムは昨年度より約 3 週間早い 11 月 20 日～22 日に開催した。梨花女子大では学期中であり、3 日間通しての参加者は少なかったが、授業の合間をぬって参加しているように見受けられた。日本女子大学からの参加者が、学生 18 名、教員 3 名、本学からの参加者は学生 19 名（学部生 7 名、大学院生 12 名）、教員 5 名であり、昨年度と同程度の規模であった。

今回の宿舎は前回までとは違うホテルで、地下鉄で 5 駅離れた場所にあったが、交通のアクセスはよく、特に混乱はなかった。価格が前回よりも多少高かったものの、設備や受付の対応がしっかりしており、安心できる宿舎だった。

2. 研究発表に関して

今回のシンポジウムでは、教員発表が 4 件、口頭発表が 51 件、ポスター発表が 62 件あった。シンポジウムの口頭発表セッションは昨年同様、4 つのセッションで行われた。昨年度と同様に、参加教員の審査にもとづく発表賞が設けられ、各セッションおよび各大学から 1 名ずつの学生が表彰された。今回は、ポスターセッションにも出席して発表するという条件がついていたが、本学の学生はしっかり発表していたと思う。

私が出席した統計・数学・計算科学セッションでは、例年のことながら本学からの発表者が少なく、2 名のみだった。今回は本学からも数学分野からの参加者があったが、もっと増えると交流も広がると思われる。

ポスターセッションは例年通り廊下で行われた。例年よりはずっと過ごしやすい気温だったが、場所によっては寒いところもあり、ポスターボードの位置によって集客に差が出てしまっているところが少し残念だった。しかし、他の人の発表を積極的に聞いたりする学生の姿勢も見られ、セッションを楽しんでいたように思う。

3. その他

今回は 2 日目の夕方はバンケットが教員だけで、学生は自由行動だった。見聞を広める機会が増えたのはいいことだが、他大学の学生との交流を深められる時間も、もう少し増やしてもいいかもしれない。

来年度のシンポジウムに関しては、日本で開催したいと梨花女子大側から事前に相談があった。シンポジウムの期間中には梨花女子大の副理学部長を交えて、話し合う機会もあった。相互に訪問することで、より交流を深めるという目的がある。日程や開催方法については、今後議論を進める必要がある。

第 9 回日韓3女子大学交流合同シンポジウム参加報告：Symposium Report　2018/11/25

参加者名(Name)：森川雅博
所　　属(Affiliation)：理学部物理

※赤字は提案です．ぜひご検討ください．

1．旅程などに関して

(1)　羽田 8:30 の JAL 便は早すぎ．“例年使っている”という理由らしいが，1 時間半遅らせてもいいと思う．開会後のセッションでたくさんの学生が眠っていた．

(2)　金浦空港から直接会場に向かうとよい．大きな荷物を持っていても，キャンパスコンプレックス(海割れ階段)最下部まで下りて右奥のエレベータで地上まで．本館前を斜めに進んだ薬学部ビル，POSCO ビルのエレベータを乗り継ぎ 4 階から連絡橋直ぐにサイエンスビル B2．エレベーターで 1 階まで行くと会場．50 人ぐらいでも 3 回に分ければ十分乗れるほど大きなエレベータ．

(3)　日本女子大は教員引率が丁寧(集団行動)．お茶大は学生の自主性を尊重(放任)なので，比較的楽であった．

2．研究発表に関して

(1)　**教員発表，学生は概して寝ていた**．シンポジウムまでの英語プレゼンテーション授業演習，リハーサルはあって形は一応整っているけど，質疑応答がついていけてない．普段から議論をしていればいいのだ．そのような教育を拡充したいのですけど．

(2)　研究内容はそれぞれに面白いけど，ポスターのデザインはどれも似たり寄ったり．工夫が必要だろう．

(3)　4つの平行セッション．分野が限られるので楽ではあるが，もっと他の分野も聞きたかった．教員セッションに時間を取らずに，学生(の一部)が全体会議で話せばよい．

(4)　私が出席した物理・応用科学セッションでは韓国側発表者は 2 名のみ．韓国学生は自分らの発表後さっさと帰って行った．学生の議論が発展しなかったのが残念だった．

(5)　梨花女子大からの参加学生は概して少ない．聴衆，発表，懇親会．12 月中旬開催の去年とは違い試験期間とは重なっていないにも関わらず，だ．受け付け担当学生は日本語学科や美術科(浮世絵専攻)の学生．真隣の延世大学からも参加者を募ったら？

(6)　ポスターセッションは廊下で．韓国学生の参加が少ないので，主に日本語での議論になっていた．日本人同士が英語で議論できるようになると良いと思う．

3．その他

(1)　Nine tree hotel はきれいな新しいホテルで快適であった．唯一の欠点は，係の人が nine tree の意味を知らなかったことだ．入口外両側に 4 本ずつ＋内側直ぐ真ん中に 1 本，背丈ぐらいの木はあるけど，…謎だ．

(2)　梨花女子大学の気さくな Jae Youn Ahn 先生が全体をよくまとめていた．

(3)　会場受付のインスタントコーヒーより，108 教室横のコーヒーサーバーが美味．昼朝職のサンドイッチについてくる餅が大変美味だそうだ．食べ損ねたのが残念．

(4)　紅葉がきれいだった．お茶大の木々はラインに並んでいるが，ここは林になっていて紅葉の木々が奥深く自然を感じられる．

第9回日韓3女子大学交流合同シンポジウム参加報告：Symposium Report

参加者名(Name)：近藤　るみ
所　　属(Affiliation)：基幹研究院・自然科学系

日韓 3 女子大学交流合同シンポジウムには、初めて参加させていただいた。この会を継続する上で、多くの方々のご苦労ご協力があったことにまず感謝したい。学生にとって、大変貴重な会であることは間違いない。一方、今後の課題も見受けられたので、初めて参加した者として、率直な感想を述べたいと思う。

1．旅程などに関して

今回のシンポジムは昨年度より早い 11 月 20 日～11 月22日に開催した。お茶大からは学生 19 名。往路は、羽田発 8:25、金浦空港着 11:00。羽田の集合時間が 6:25 であった。復路は金浦空港集合時間 17 時半、19:15 発、21:20 羽田空港着であった。行きの集合時間が早く、始発電車で来る学生も多かったが、工藤先生の的確な指示で時間、移動、全てスムーズに行われ大変良かったと思う。ただ、早朝と緊張で学生は疲れているように見受けられた。飛行場からホテルに直行して、その後すぐ会場の梨花女子大（EWU）に向かい、用意していただいたサンドウイッチをいただき、15:30 からの Registration まで休憩した。この時、大学の wifi にアクセスするためのパスワードを教えていただき、各自インターネットにアクセスするための設定をしたり、大学案内のビデオを見たりして過ごした。

ホテルは今回初めて利用するところで、1部屋1泊およそ 1 万円強。新しく清潔で、広くて快適であった。大学へは地下鉄1本で、場所も良く、学生は 2 名の利用なので値段も手頃で大変良かった。

2．研究発表に関して

今回のシンポジウムでは、教員発表が 4 件、口頭発表が 51 件(昨年 57 件)、ポスター発表が 64 件（昨年 82 件）あった。教員発表は、大変興味深かったが、異分野の内容を英語で理解できた、学生はどれだけいたかと思うと、学生各自が理解して、英語を使用する機会や英語での交流の時間を多く設ける方が良さそうである。特に初日は寝不足で学生はつかれていたので、睡魔との戦いであったと思われる。学生が受け身にならないように、学生に企画を任せる他、教員発表を簡単なテーマの紹介とそれに関する質疑応答のようなものにするなど、学生主導にできないだろうか。

口頭発表セッションは4つのセッションで行われ、私は Life and Pharmaceutical Sciences に参加し、発表への質問、EWU の学生の発表賞の審査を日本女子大学の和田先生と一緒に行った。Life と Pharmaceutical と別々に 1 名ずつの学生を選ぶようにいわれ、Biology と Pharmacy それぞれ、EWU の 2 名から1名選ぶことになった。何を評価するかによって、異なるので選択が難しかった。賞を設けるのは良いが、各セッションから研究内容では 1 名で十分ではないか。その他、presentation, discussion, friendship, best chair など、評価基準を変えた賞を設けて、教員だけでなく、学生も評価に加わって表彰しても良いのはないかと思った。学生はしっかり準備して発表に臨んでいるのが良くわかったが、質疑応答の時間が短く、各発表に教員から 1,2 件の質問で時間切れとなった。学生からの質問は chair をしたお茶大の学生から1件あっただけであった。お茶大生が質問したのは大変良かったと思う。外国語での質疑応答

には考える時間が必要である。学生が経験できる貴重な機会なので、質問も学生で分担して、もう少し時間をかけてしっかりと行いたいと感じた。EWU からは、英語で学んできた学生が選ばれて参加しているように見受けられた。自分の発表の前後だけに参加している様子で、ポスターセッションには、参加しない学生も多く、日本の学生との研究交流やディスカッションがあまり活発にできなかったことは、残念であった。私自身は、EWU の学生とは、 ポスターセッションで詳細に説明してもらえたことが、大変良かった。口頭発表時間を自己紹介とポスターの研究テーマの紹介にとどめ、ポスター発表をもっとしっかり行う方が学生には実践的で良いかもしれない。お茶大生はポスター発表を英語でする練習はしていないので、こちらをもっとしっかり準備することが、質疑応答や交流ができるようになる近道ではないかと感じた。

３. その他

初日の晩には学生交流の Reception が行われた。3 大学の学生がテーブルに混ざって座り、英語で楽しく交流できていたことは大変良かったと思う。EWU の学生はお世話係の Ahn 先生の関係者で、セッションに参加した学生とは異なっていた。学期中に学生の参加や教員の協力を募るのは難しいことが予想された。研究会でも Registration には大勢の教員の名札が用意されていたが、参加した教員は役割分担が決まっていた教員にほぼ限られていた。来年は、お茶大で開催される方向で話が決まったが、国内開催の研究会にどれだけお茶大の学生が参加してもらえるか、授業に組み込む等、学生と教員の協力を得るための工夫が必要かと思われる。

第9回日韓3女子大学交流合同シンポジウム参加報告：Symposium Report

参加者名(Name)：棚谷　綾
所　　属(Affiliation)：基幹研究院・自然科学系

今回のシンポジウムでは、当初は随行教員として参加の予定であったが、研究分野のバランスからお茶大からの教員講演（口頭、ポスター）を担当した。

1．旅程などに関して

今回のシンポジムは昨年度より1ヶ月近く早い11月20日～22日に開催された。例年の12月開催時よりはソウルの寒さは厳しくないとのことであったが、やはり東京に比べれば充分寒く、持参したダウンジャケットが役にたった。滞在期間で最も寒かった日の予報は、最高気温8度、最低気温1度であった。金浦空港からホテル、また梨花女子大への移動も大人数であったが、スムーズに行えた。引率をまとめられていた工藤先生のご尽力が大きかった。

2．研究発表に関して

今回のシンポジウムでは、教員発表が4件、口頭＆ポスター発表が51件あった。シンポジウムの口頭発表セッションは昨年同様、4つのセッションで行われ、参加教員の審査にもとづく発表賞が設けられ、各セッションで各大学から1名ずつの学生が表彰された。シンポジウムの開催までの英語プレゼンテーションに関する演習授業を設けるなど、いずれの学生もしっかり準備して発表に臨んでおり、授業の成果がでていることがうかがえた。

私が出席した化学セッションでは、日本女子大から参加した化学系教員はおられず、日本人教員は私自身だけだったので、発表賞の審査の重責を感じた。特に日本女子大からは化学系では2名しか発表者がいなかったため、またその2名ともがよい発表をしていたため、（審査は梨花の先生がして下さったが）2名からの選考は苦しいものがあったと思われる。どの大学の賞も複数の教員で合議できるような形が理想だが、参加教員数の確保など今後の課題と思われる。また分野が違いすぎる研究発表もあり、質問が適切であったかも疑問である。

また私自身の口頭発表に関していえば、韓国側にも日本側にも私と近い分野の教員が聴講していなかった。しかしながら、他の先生方も、それぞれ専門分野の講演をなさっておられたので、これはこれでよいのかと感じた。ちなみに、私の講演に対する質問は、梨花女子大の物理系教員による「（その構造を観測するための）測定装置は他にも使えるものはあるのですか？」といったようなものであった。

3．その他

今回の宿泊は昨年までと異なるホテルを利用した。本ホテルは新しくきれいでとても快適であったが、一方で、ホテルと梨花女子大の最寄り駅が離れているのでもう少し近いホテルの方がよいかもしれない。お茶大の先生から、行きの便が早すぎる（＝始発電車でも空港の集合時間に間に合うのがきびしい）というご指摘もあったが、もう1、2本遅い便にすると、金浦空港に到着後、梨花女子大に行く前にホテルに荷物をおく時間がなくなり、また、梨花女子大は急な山の斜面にあるため、トランクなどをもったまま空港から直行するのも厳しい。行きの便の選定は、朝の集合時間と、現地でのホテルの位置など総合的に動線を考えなくてはいけないと感じた。

しかし、来年度の最も大きな問題は、お茶大で開催することになりそうということである。梨花女子大は世界最大の女子大といわれるだけあり、広大な敷地と、りっぱな建物を有する大学で、このような交流事業の予算も充分にあるようであった。お茶大は、それと比べると規模も小さく、設備も整っていないので、どのようにホストをつとめるのか、また物価の高い東京で適切な宿泊施設や食事等を選定できるかなど課題は山積と思う。

第 9 回日韓3女子大学交流合同シンポジウム参加報告：Symposium Report

参加者名(Name)：元岡展久
所　　属(Affiliation)：基幹研究院・自然科学系

第 9 回目となる今回のシンポジウムにおいて、随行教員として参加した。以下、簡単に報告する。

1. 旅程などに関して

今回のシンポジムは 11 月 20 日～22 日、韓国ソウルの梨花女子大学で開催された。学生を引率しての大人数での移動は時間や手間がかかるが、本学の工藤先生の周到な準備と的確な案内によって、特に問題なく移動できた。またホテルも利便性の良い場所であった。

2. 研究発表に関して

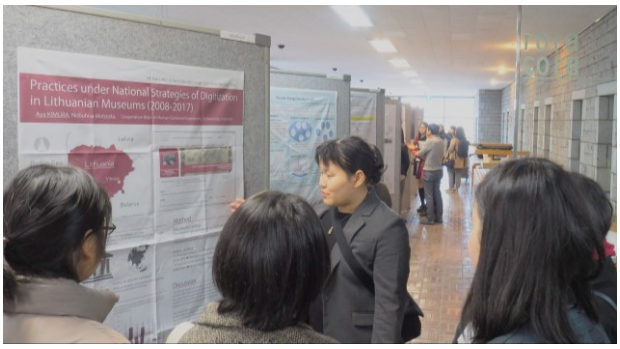
今回のシンポジウムでは、教員発表が 4 件、口頭発表が 51 件、ポスター発表が 73 件あった。シンポジウムの口頭発表セッションは昨年同様、4つのセッションで行われた。昨年度と同様に、参加教員の審査にもとづく発表賞が設けられ、各セッションおよび各大学から 1 名ずつの学生が表彰された。学生たちは、シンポジウムの開催までの英語プレゼンテーションに関する演習の成果もあって、しっかり準備して発表に臨んでいた。

私は物理セッションに参加した。分野が違いすぎる発表や、英語能力の欠如など、なかなか議論が発展しないものもあったが、学生教育の点からすれば、良い経験になったと思われる。ただし、学生間の質疑がほとんどなかったことは問題である。ポスターセッションは例年通り廊下で行われた。自分の発表をしたり、他の人の発表を積極的に聞いたりする学生の姿勢が見られた。

3. その他

来年度のシンポジウムに関して、日韓の教員の Professor Banquet において議論された。お茶の水女子大学で行なうこと、9 月上旬が都合良いことなどが検討された。詳細の日程や開催方法については、今後議論を進める必要がある。

なお、梨花女子大学のキャンパスは、お茶の水女子大学に比べ広く、建築的にも多々魅力的な建物が整備されていた。大学独自のホール、博物館や資料館も設置され、研究、教育環境として充実している。キャンパス内に観光客や市民の姿も多く、開かれた大学の印象をうけた。



ポスターセッションの様子

教員発表の様子